

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまざり」		
所在地	〒859 - 1503 長崎県南島原市深江町丙357番地		
自己評価作成日	平成22年1月21日	評価結果市町村受理日	平成22年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーにし、地元で取れる食材で旬のものをおいしく食べ、日光をたくさんあび、体内時間を充実させ、時にはホーム内の畑で野菜作りを楽しんで頂いたり地域のイベント、ホームの行事に参加し笑顔で過ごして頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームのリビングは広く、利用者はソファや畳の部分で一日の殆どを過ごされている。近くに犬や兎等、小動物を飼い、会話や動物の鳴き声を聞き、見守りながら一緒に楽しく生活している。利用者と一緒に考え、ルイボスティやお茶風呂等、拘っている。毎日を笑顔で美味しい物を食べながらを基本姿勢として、家庭菜園や近くのスーパーで買い物時の食材によってメニューを変更しながら、利用者の好みや希望を取り入れて支援している。健康管理を考え、月1回の体重測定は車いすのまま量れる体重計を設置している。医療機関は歩いて直ぐの場所にあり、院長が通勤途中に立ち寄られる事があり、安心した生活への支援が出来ている。また、近所の人とは顔馴染みで、地域に根ざした交流に努め、自然な交流が深まり、同様に施設長は常に向上心を持ち、他者の意見を真摯に受け止め、今後の取り組みが期待できるホームである。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855 - 0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年2月18日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」を理念におき、笑顔確認をしている。	会議の中で職員全員で意見を出し合って「毎日が笑顔」を理念に掲げ、特に今年度は笑顔で美味しい食事を食べる事を共有し支援に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小、中学生の福祉体験学習の受け入れ、地域のイベント参加、ホームの近隣の人や子供と会話、スーパーのやすうりに出かけてます	自治会への加入はないが、近所の方や顔馴染みの方が多く声かけも多い。夏祭り(バーベキューや出店を出す)や餅つきのイベントにも家族や近くの商店にも案内を出し参加して頂き交流を行っている。祭りの御神輿も立ち寄って頂いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スーパーでの買い物や、お神輿来所、散歩に出かけ地域のかたと触れ合う		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	契約書や同意書について意見がでましたので今年から写真使用同意書をついかしました	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの方や市議員(小学校のPTA会長の役職もされている)が参加され、地域の情報や多方面での意見が聞け心強い。また、欠席の方には会議内容を送っており、今年度は様々な理由により会議は2回開催された。	運営推進会議を二ヶ月に一回(年六回)開催されることを期待したい。また会議内容を事業所便りに報告しサービス向上に繋げる事に期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	島原市半島連絡協議会に入会	利用者で公的扶助や成年後見人制度を利用している人がおり、市の担当者が来所する事がある。また、最近雇用した職員は、職業安定所の実習型雇用を利用しており、公的援助を活用している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所当時から全面身体拘束廃止の姿勢をとってます	身体拘束を掲示されており啓発されている。現在入居者で、不安定な人は拘束の実施をしない為に、畳の部分で職員と一緒に昼夜を共にしている。職員の言葉かけや誘導で物を頼む時も同じ人に、言いやすい関係に努め、施錠することなく自由な生活に向け尽力している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉での虐待に気をつけてます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体把握してるが支援なし		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所予約時、見学時、入所時に説明		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「あまぎりだより」を毎月発行	利用者は時には電話や買い物への希望を言われ、出来るだけ支援している。家族の面会は週一～週二回又は月に一回はある。受診予定をホームとあまぎりだよりに載せ、利用者が受診された際、様子が聞けて良かったと家族から喜ばれている。便りを保存して頂く為のファイルを配布している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、連絡帳、食事会等設けている。	ケア面に関する連絡や連絡ノートを活用しているが、全体会議がなく、問題発生時の対応(インフルエンザに職員が罹患している)の話し合いが持たれていない。	全体会議を設け、研修会後の勉強会によるスキルアップや、職員の意見や提案を反映され問題点の把握や共有を加味した運営体制の充実に努められる事を期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者がホーム内に居なくても任せられるしそれぞれ役割分担し業務に取り込める		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加出来る勤務体制をしている。今年度は消防学校に3名、防火管理者1名		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流までは行きませんが野菜のおすそ分けや使わなくなった餅つき機会をいただきました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の方との会話を多くもつ		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の本人の過ごし方、ホームの職員への要望を面会時ごとに聞く		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当面のケアプランを立てる		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要なときすばやく介護出来るように。。。 (介護させていただく 姿勢です)		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「あまざりだより」を毎月発行、本人の写真入年賀八ガキ、暑中見舞い、クリスマスカードをだし、返事を貰う(遠くに居られる方が多いです)		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前使用していた服、靴、布団を使用させていただいてます	同級生の方からの面会の問い合わせの電話や、面会に見える。月に一回自宅に帰られる方もある。希望者には施設長の家の墓参りに一緒に参られている。年賀状、暑中見舞等を写真入りで家族全員とお孫さんにも送り、手紙のやり取りがある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	就寝時以外はリビング、娯楽室にてすごしていただく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と連絡のみです		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族やほんにんの希望を聞き入れる(ある日利用者様から「お弁当作って、花見に行きたい」といわれ弁当もって出かける)	日頃から職員と利用者が話すことで、思いを把握し支援に繋げるよう努めている。基本情報・アセスメント・フェイスシート等に利用者の状況を記述するようになっているが、生活歴の把握や共有に活用できていない。	利用者がどのような生活をしてきて現在に至ったかの生活歴や、現状が把握できる書式を工夫され、職員が共有に活用できる充実した個別ファイルの作成を期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なかなか入所前の生活歴の把握が難しいです		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録記入		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の参加が少ないし同じことを言われる	本人と家族の希望に沿った、介護計画を作成している。計画の実施をチェックする為のモニタリングの実施はあるが、介護計画と実施状況を記録する個別記録との連動性が分からない。	介護計画は利用者のケアの目標であり、実施状況が分かる記録の工夫が望まれる。また、計画の評価や期間設定を明確にされ、計画・期間・モニタリング・評価等の連動した書式を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と連絡帳にて共有し実践につなげてる		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望で買い物、散歩、電話をかける等申し出があるときは迅速に対応する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人が野菜の出来た畑を提供くださり利用者と一緒に収穫に出かけます。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とホーム看護師と連携を取っている	ホームの近くの医院がかかりつけ医で往診や受診している。利用者の状態によっては転院にも対応していただける。院長が自宅に帰られる途中に、立ち寄って診て行かれる等、密接な関係が出来ている。専門医の受診も可能である。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤、夜勤者の報告しをホーム看護師24時間体制		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室と連携をとる		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでも終末期を迎えられる(看取り、重度化の同意書がある)	ホームでの看取りは一件あり、医師、家族、事業所との話し合いが行われ希望に沿うように支援に取り組んでいる。不幸の時にはホームで撮り溜めた写真をプレゼントし、思い出に活用していただいている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1ど救急の研修に参加		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団、近隣の方と連携	スプリンクラーは準備中であり、火災自動報知器は設置されているが、地域消防団との日程調整が難しく避難訓練は一回も実施できていない。また、持ち出し品のリストはあるが備蓄が揃っていない。	火災や地震災害を想定しての安全確認や避難訓練は年二回は必須であり、実施されることを期待したい。また、非常時の持ち出し品として、利用者の必要リストの確認と備蓄の準備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語で話す事を心がけている	失禁時には言葉かけ(用事がある等)で対応している。写真記載等の同意も家族から得ており、個人記録は事務所で保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で自己決定している(何が食べたい? 何がしたい? など)		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本意です		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みにおおじてます		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、豆の筋取り、食材を切る等毎日ではないですが一緒にしています	予定献立を立てて食事を楽しんでいる。利用者の希望や買い物に行き献立が変わることもあり、全介助者一名と半介助者二名があり、刻み食の対応もある。また、退膳や台ふき等の片付けも出来る人と一緒にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給にルイボスターを使用し1日1500CCの飲水、取れたて旬の野菜や魚を食材としています。味は薄味に心がけてます		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はみがき施行 必要時には歯科受診		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は排泄時間誘導、声かけ	排泄チェックシートで確認し、トイレに誘導している。夜間はポータブルトイレ(二名)やおむつ(四名)、トイレ(3名)で、排尿・排便確認表により自立に向けた支援を心がけている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、繊維の多い食材を多く取り入れる		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	殺菌効果のあるお茶を入浴剤に使用 1日おきの入浴	入浴拒否者が一人いらっしゃるが、一回声かけし時間をおいて誘導している。失禁時はシャワー浴で対応している。また、お茶のお風呂の為か、利用者は肌つやが良い。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴を取り入れ体内時間をつくる		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋がありいつでも確認出来る様にしてある		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後のテーブル拭き、犬の世話、散歩、草取り、菜園の手入れ		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、島原の初市(南風桜協力)各地イベント参加	玄関に出たり、散歩や買い物は日常的に出かけている。かかりつけ医が近いため歩いたり、車いすで行く事が多い。花見・外食・初市等、ドライブにはサンルーフ付きの車で対応し、全員で出かけ喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解のもと所持される方も居られる、買い物の際一人ひとりに支払いをして頂く		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が付き添い電話で話されます		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの生花を飾ったり、写真の掲示	トイレのカーテンを外し、利便性を考え試行中である。リビングに、ストーブを使用しているが気をつけて過ごされ、焼き芋を楽しみにされている。また、ゲージの中でうさぎや犬が飼われ、子犬が三匹誕生し、利用者は近くのソファに座って見守っている。リビングは広く、壁には家族からの事業所宛ての手紙なども掲示されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室での日向ぼっこやソファの腰掛けてテレビ鑑賞、カラオケ、体操、ゲームを楽しむ		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご主人の葬儀の時の写真を飾られ毎日お経を上げられたり、水を備えたりされてます	入居前から使用していた布団を持ち込まれ居心地よく過ごされている。孫さんからの手紙や写真を飾られ楽しんでいる。居室の床はタイル絨毯で汚れた部分のみの洗浄が出来、清潔面に配慮して、快適な生活のお手伝いをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにし杖歩行、車椅子走行が自由にできる		